

民医連から57名の参加で健康・生活相談など154名と対話

移動何でも相談会
宮城・石巻



じっくりと時間をかけて健康相談にのる

津波でお宅が全壊した 73 歳の女性。健康状態は大丈夫だが、避難所生活はプライバシーがない。衣類も全て流されてしまったので、支援物資はととてもありがたい。今は仮設住宅の抽選結果を待っている。夏物のシーツやタオルケットがあれば嬉しいのですが。



訪れる人の話を聞きながら血圧測定

鈴木健さん 60 歳、自宅は床上 2m 浸水、今は 2 階で生活している。炊き出しはとても美味しいです。船に関わる仕事なのでこれからの仕事の事が心配。自宅を修復したいが忙しいせいか、来てくれる大工さんが見つからない。

自宅が床上浸水にあった 79 歳の女性。旦那さん (88) と避難所生活をしていましたが、2 週間位したら車を運転し、普通に歩いていた夫の具合が悪くなり、歩けなくなり病院に入院した。避難所は板の間に毛布を敷いているがなかなか眠れない。夏物の衣類がない。避難所から病院に通うのが大変。

5 月からの重点課題として位置付け準備してきた「移動何でも相談会」が、5 月 14 日、石巻市のみやぎ生協大橋店駐車場で開催され、民医連から 57 人が参加しました。

全国からは心のケアチームを始め医師や看護師など 19 人、宮城民医連からは医師・歯科医師・薬剤師・看護師、MSW など 38 人が参加して、血圧測定、健康相談、生活相談、アンケート調査、物資の配給などを行いました。前日のチラシ配布など宣伝効果もあり、会場には被災された方、避難所などから 1200 人の市民が集まり大盛況でした。健康相談会のブースでも 93 人の方が相談に訪れ、健康面だけでなく、生活や仕事の悩みを語っていきました。地域訪問と合わせて 154 人の方と対話することができました。

炊き出し、支援物資提供に1200人集まる

今回の取組みは、宮城災対連と、全労連や民医連、農民連などで構成する東日本大震災共同支援センターが主催したものです。日用品などの物資の配布や炊き出しも含めて、被災地の皆さんからはこういう行動が待たれていると実感できる取組みとなりました。民医連の 57 人を含めて 120 人のボランティア参加がありました。

500 食以上準備したお餅入りトン汁はなくなり、8 トンにも及ぶ物資も被災された方に配布され、大変喜ばれました。

(関連記事 復興ニュース第 44 号でも)

JR 東日本で復興支援の割引切符発売 「つなげよう、日本」 新幹線 仙台⇒東京 5000円

JR 東日本では、東日本大震災の被災地で活動を終えたボランティアに帰宅時に使ってもらうために、東北新幹線「やまびこ」号の自由席を



半額で利用できる割引切符を発売すると発表した。5 月 14 日から 6 月 13 日までの 1 カ月間発売する。

仙台ー盛岡間の各駅から東京駅に向かう片道のみを設定で、仙台ー東京間は「破格」の 5000 円だ。勿論、ボランティア参加者だけでなく誰でも利用できる。

また、復興支援策の一環として、新幹線や特急列車を含む JR 東日本全線などが 1 日乗り放題の「JR 東日本パス」(1 万円)も 11 日から発売している。利用期間は、6 月 11 日から 6 月 20 日までと 7 月 9 日から 7 月 18 日まで。新幹線や特急を含む普通車自由席に乗車でき、指定席も 2 回まで利用可能。発売期間は、利用日の 1 か月前から前日まで。